

JSAS

応用統計学会

Japanese Society of Applied Statistics

応用統計学会 information

2021.09.01 No. 2

目次

応用統計学会 information 創刊までの道のり (東京理科大学 安藤宗司)	2
ASA 会長招集「統計的有意性と複製可能性」タスクフォース声明の紹介 (SAS Institute Japan 株式会社 小野裕亮)	3
学位 (博士・修士) 論文の紹介	3
投稿のお願い	5

発行 応用統計学会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5 階

公益財団法人 統計情報研究開発センター内 応用統計学会事務局

Tel & FAX : 03-3234-7868

編集責任 情報・広報委員会

富澤貞男 (会長), 松浦正明 (副会長), 田畑耕治 (庶務 (文書) 理事),
生亀清貴 (庶務 (情報・広報) 理事), 山本紘司 (企画理事),
安藤宗司 (会計理事)

応用統計学会 information 創刊までの道のり

東京理科大学 安藤宗司

応用統計学会 information 創刊に至った経緯，どのような苦労があったのか，編集責任者として応用統計学会 information への想いなど簡単にではありますが述べたいと思います。

2020年5月に富澤会長のもと新理事会が発足し，最初の理事会で会長から今後の活動方針案が提案されました。活動方針には，「若い方にとって魅力のある学会にしたい」という想いが根本にあり，若手研究者の一般講演者を対象に賞を新設，学会ホームページの刷新など様々な取り組みがありました。その中に，会員間で気軽に情報交換できる場を設けるために，学会の様々な情報が会員へ発信される情報誌を発行したいという項目があり，山本理事，生亀理事と私が情報誌の検討を担当することになりました。

若い方にとって魅力のある学会，会員間で気軽に情報交換できる場とするために，情報誌をどのような内容にするかまず検討していきました。「理論はまとまっているが適用する応用例がない」，「実課題で困っているが理論の構築ができない」など研究で困っている方が共同研究者を募集できる場となれば，若手研究者にとっていいのではないかと。著名な先生や若手の先生に，日ごろ考えていること，応用統計学への想いなどについて，記事を書いて頂くのはどうか。カリキュラム・統計教育紹介があれば，会員間で気軽に情報交換できる場になるのではないかと。山本理事，生亀理事と議論した内容を理事会で報告し，他の理事の先生方にご意見を頂きながら情報誌の方向性を具体化させていきました。統計教育紹介，研究紹介，ゼミ紹介，学位（修士・博士）論文紹介，共同研究者の募集など，会員同士の意見交換に繋がる原稿であれば，原則，どのような内容でも原稿を投稿できる情報誌を目指すということになりました。

創刊号では，田栗正章先生，高橋佳苗先生に日ごろ考えていることや応用統計学への想いなどをご寄稿頂きました。また，カリキュラム・統計教育紹介について，瀬尾隆先生，椿広計先生にご寄稿頂きました。原稿の執筆依頼をさせて頂いた際，快くお引き受け頂きました。この場を借りて，改めて御礼申し上げます。まだ創刊号を読んでいない方がいらっしゃれば，学会ホームページに公開されていますので，是非ご覧ください。

新型コロナウイルス感染症の影響により，他者との繋がりをもちにくい状況が続いております。本学会においても，昨年度の年会は中止となり，本年度はオンラインでの開催となりました。通常ですと，対面で年会が実施され，情報交換や意見交換が活発に行われていたかと思えます。応用統計学会 information を通じて，情報交換や意見交換を行い，研究者間の交流に役立てて頂きたいです。講義の実施形態も新型コロナウイルス感染症の影響により大きく変わったものの一つかと思えます。会員の皆様の取り組みを応用統計学会 information にご投稿頂き，統計教育の質向上に繋がればと思えます。

最後になりますが，会員の皆様の積極的なご投稿により応用統計学会 information が情報交換や意見交換の場として活用されることを期待しています。将来，本学会の魅力の一つとして会員の皆様に認知されるときが来るのを楽しみにしております。

ASA 会長招集「統計的有意性と複製可能性」タスクフォース声明の紹介

SAS Institute Japan 株式会社 小野裕亮

ASA 会長招集「統計的有意性と複製可能性」タスクフォースが、先日、声明を発表いたしました。この声明(The ASA President's Task Force on Statistical Significance and Replicability)は、Annals of Applied Statistics のプレプリント版として公開されています (<https://imstat.org/journals-and-publications/annals-of-applied-statistics/annals-of-applied-statistics-next-issues/> [2021年7月20日現在])。

このタスクフォースは、当時、ASA の会長であった Karen Kafadar 先生が 2019 年に招集いたしました。声明では、全部で 4 つの項目に分けて、統計的有意性と複製可能性について助言をしています。2016 年 p 値声明と同様、統計家の方々にはごく基本的な事柄かもしれませんが、統計的有意性の議論を進めるうえで、非常に有益な見解になっていると思います。

同声明は、ASA の正式な声明ではなく、あくまでタスクフォースの見解です。同声明は、2019 年の The American Statistician における特集 Moving to a World Beyond “ $p < 0.05$ ” でのゲスト編集者たちによる編集記（以下、「2019 年編集記」と呼びます）とは異なった意見が述べられています。特に、「5%」といった閾値を設けることを 2019 年編集記ではやめるように述べていますが、今回のタスクフォースでは場合によっては閾値を設けて判断してもいいだろうとしています。

2016 年に p 値声明が出された後にもさまざまな意見が出されました。そのなかの 1 つに、2019 年編集記がありました。今回のタスクフォース声明と同様、2019 年編集記は、ASA の正式な声明ではありません。しかし、私自身も含めた一部の人は、2019 年編集記を読んで、「5% 閾値」や「統計的有意」を、ASA は 2016 年の p 値声明によって禁止した」と解釈しました。今回のタスクフォース声明は、その解釈を調整するものとなっています。

この投稿は、投稿者個人だけに責任があり、所属組織には責任は一切ありません。

学位（博士・修士）論文の紹介

学位（博士・修士）論文を原稿到着順に紹介いたします。氏名、論文題名、取得大学、学位の名称、主査または指導教員、取得年月の順に記載いたします。

- 楊 仲栩. 中国の先端技術企業における R&D 投入費と販売費が企業の業績に与える影響についての分析. 青山学院大学. 修士（経済学）. 元山 齊. 2021 年 3 月.
- 上山 咲紀. がん第 1 相臨床試験における複数用量の毒性発現情報を考慮した keyboard design の構築. 東京理科大学. 修士（工学）. 寒水 孝司. 2021 年 3 月.

- 太田 愛作. がん第 1 相臨床試験における 2 剤併用療法の Interval design の改良. 東京理科大学. 修士 (工学). 寒水 孝司. 2021 年 3 月.
- 福島 龍一. 傾向スコアモデルにおける変数の重要度を考慮した Outcome-Adaptive Lasso の構築. 東京理科大学. 修士 (工学). 寒水 孝司. 2021 年 3 月.
- 三浦 南. 2 段階ランダム化臨床試験における導入療法と維持療法の治療効果の推定. 東京理科大学. 修士 (工学). 寒水 孝司. 2021 年 3 月.
- 山田 桃香. 臨床試験における主要評価変数の型と変数間の相関を考慮した標本サイズ設計法の提案. 東京理科大学. 修士 (工学). 寒水 孝司. 2021 年 3 月.
- 越前谷 勇典. べき正規分布に基づく Pliable Lasso. 同志社大学. 修士 (文化情報学). 宿久洋. 2021 年 3 月.
- 井上 由佳. Latent Variable Visualization for Time-Varying Multi-Modal Data. 同社大学. 修士 (文化情報学). 宿久洋. 2021 年 3 月.
- 加藤 秀佳. 日本語文法誤り訂正におけるデータ増強および評価データ構築の提案. 同志社大学. 修士 (文化情報学). 宿久洋. 2021 年 3 月.
- 松岡 航希. 質的データに対する分位点回帰の拡張について. 同志社大学. 修士 (文化情報学). 宿久洋. 2021 年 3 月.
- 森岡 優輝. 汚染データへの適用のための確率的主成分分析法の拡張. 同志社大学. 修士 (文化情報学). 宿久洋. 2021 年 3 月.
- 高澤 一平. クラスタ構造を考慮したスパース構造方程式モデリング. 同志社大学. 修士 (文化情報学). 宿久洋. 2021 年 3 月.
- 中村 知繁. Robust causal inference via subclassification and covariate balancing methods (層別化法と共変量釣り合い法による頑健な因果効果の推定). 慶應義塾大学. 博士 (工学). 南 美穂子. 2021 年 2 月.
- 藤澤 健吾. Modeling of asymmetry for square contingency tables with ordinal categories. 東京理科大学. 博士 (理学). 田畑 耕治. 2021 年 3 月.
- 伊藤 和輝. On the asymptotic approximation of EPMC for linear discriminant function with two-step monotone missing data. 東京理科大学. 修士 (理学). 富澤 貞男. 2021 年 3 月.
- 大野 智裕. Decomposition of symmetry model by using conditional difference asymmetry model for square contingency tables. 東京理科大学. 修士 (理学). 富澤 貞男. 2021 年 3 月.
- 長 光 司. Measures of departure from marginal inhomogeneity for square contingency tables with nominal categories. 東京理科大学. 修士 (理学). 富澤 貞男. 2021 年 3 月.
- 塚田 将行. A geometric mean type measure of departure from quasi-symmetry for square contingency tables. 東京理科大学. 修士 (理学). 富澤 貞男. 2021 年 3 月.
- 難波 怜雅. Improved approximate unbiased estimators of measure for departure from partial symmetry for square contingency tables. 東京理科大学. 修士 (理学). 富澤 貞男. 2021 年 3 月.

- 福本 伸樹. Measure of departure from conditional partial symmetry for square contingency tables. 東京理科大学. 修士 (理学). 富澤 貞男. 2021 年 3 月.
- 満 留 大 樹. Improving a measure of departure from symmetry and its approximate confidence interval for square contingency tables. 東京理科大学. 修士 (理学). 富澤 貞男. 2021 年 3 月.
- 桃崎 智隆. Two-dimensional measure of departure from some symmetry and asymmetry for square contingency tables with nominal categories. 東京理科大学. 修士 (理学). 富澤 貞男. 2021 年 3 月.
- 矢野 大貴. Geometric mean type measure of departure from partial symmetry for square contingency tables having ordered categories. 東京理科大学. 修士 (理学). 富澤 貞男. 2021 年 3 月.
- 荒 井 智 彦. Testing the symmetry of 2 x 2 contingency tables with missing data by parameter-identifiable graphical models. 東京理科大学. 修士 (理学). 田畑 耕治. 2021 年 3 月.
- 白 井 駿 弥. Sparse estimation for high-dimensional contingency tables using penalized weighted score function. 東京理科大学. 修士 (理学). 田畑 耕治. 2021 年 3 月.
- 須藤 穂高. Implementation of various symmetry in R for square contingency tables. 東京理科大学. 修士 (理学). 田畑 耕治. 2021 年 3 月.
- 松田 康平. Diagonals-parameter symmetry model based on f-divergence and its property for square contingency tables. 東京理科大学. 修士 (理学). 田畑 耕治. 2021 年 3 月.
- 原 みゆひ. 検査性能評価における優越性および非劣性を組み合わせた解析手法の提案. 横浜市立大学. 修士 (医科学). 山本 紘司. 2021 年 3 月.

投稿のお願い

統計教育紹介, 研究紹介, ゼミ紹介, 学位 (修士・博士) 論文紹介, 共同研究者の募集など, 会員同士の意見交換に繋がる原稿をお送りください. また, 日ごろ考えていること, 応用統計学への想いなどについてもご投稿頂けると幸いです. 原則, どのような内容でも原稿を投稿できる情報誌を目指しておりますので, 気軽に本情報誌へのご投稿をよろしくお願い致します.

投稿原稿は, Microsoft Word のファイル形式で作成したうえで, 応用統計学会事務局宛 (applstat@sinfonica.or.jp) の電子メールに添付し, 送付してください. メール の 件 名 は, 「 応 用 統 計 学 会 information への投稿」としてください.

原稿の作成要領は下記の通りです.

- 学位（修士・博士）論文紹介
論文題名, 氏名, 取得大学, 学位の名称, 主査または指導教員, 取得年月をお知らせください.
- 共同研究者の募集
研究課題名, 氏名, 所属, 募集期間, 応募先, 研究内容と求める人材など（最大 2000 字程度）
をお知らせください.
- その他の原稿
原稿題名, 氏名, 所属, 原稿（最大 2000 字程度）をお知らせください.